

令和6年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月6日(火)

会場:酒屋コミュニティセンター

参加者数:20人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>・三次中央病院の建替えに関して、利用者目線で話しをする場が1回あったが、意見がどのように反映されるのか気になる。トイレ、おむつを交換する大きなベッドを設置してほしいと要望したが、担当者はベッドを知らない様子であった。障害者の子どもたちは点滴を受けたら、おむつを交換しなければならぬと説明したが、設置するかどうか返事をもらえなかった。いろいろな病院を見学されたスタッフの方が知らないことについて、障害を持っている子ども親としては不安になった。提案内容を覚えていただいているのか、建替えにより利用しやすくなるのかという不安が強い。もう少し親身になって検討してほしい。</p> <p>・三次中央病院の対応が悪いと感じる。39度の熱が出て、救急外来に行った際に、内科の医師から、検査をしないのであれば帰ってもらってもいいと言われた。自分の子どもは水分を取ることができず、点滴をしにきたと話をした。医師や看護師から普段どこで診てもらっているのかと聞かれ、三次中央病院の小児科にかかっていると回答をした。ポイントが稼げない診療はしないという感じを受け取った。開業医を選んではいけないが、連携面での問題から、障害を持っている子どもたちは行くことができない。三次中央病院に行かざるを得ないのに、そして、障害児とすぐわかるのに、帰ってもらってもいいと言われ、重症化したらどうするのかという不安が募った。</p>	<p>病院の改築事業は進んでいるが、医療を支えているのは人である。医療スタッフが患者に向き合い、いろいろなサービスを行うことが大切である。施設が新しくなったからといって、それが向上するわけではないことも理解している。医療スタッフの研修を通して、障害者に対する取組をしなければならない。今年から障害者差別解消法が動き始め、社会全体でハンディキャップをお持ちの皆さんをどう支えるか、しっかりと検討・実施していく必要がある。三次中央病院の状況を把握し、改善していかなければならないので、今後も具体的な経験を教えていただきたい。</p>	
<p>建替えをする前に、まずは人員を確保してほしい。レスパイトの予算は確保されているが、スタッフ不足のため、1か月前の申込みでなければ利用できない。利用しにくい、新病院になることで変わるのか。民営化した事業主に予算を回して、そこで充実させた内容を実施していただきたい。今春から、医療的ケア児の施設ができたので、レスパイトの予算を、施設の充実やスタッフの確保に活用してほしい。新しい病院になるから安心というわけではなく、不安はどんどん募っている。</p>	<p>レスパイトについて、有効的な活用がされていない。看護師不足である。レスパイト事業を予算化しているが、レスパイトを有効活用していただけていない。レスパイトのサービスをするためには、看護師が適正に配置されていなければ、柔軟な対応をすることが難しい。引き続き、看護師の確保や研修を行うとともに、職員が働きやすい、そして、市民の皆さんから良くなったと評価をいただけるような病院づくりをめざしていく。いろいろな相談に寄り添っていききたい。</p>	
<p>元酒屋保育所の跡地は、草がかなり生えている。児童館の機能が酒河小学校に移ったため、活用されていない。今後、どのように活用するのか。</p>	<p>元酒屋保育所の跡地は活用したいと考えているが、その具体的な内容は未定である。いろいろと調査しながら、方針を決定していく。</p>	
<p>現在、東酒屋プールが使用されていない。どのような状況か。</p>	<p>東酒屋プールは、雇用促進事業でつくったプールであり、古くなり、施設として使うことができない。今年も使用しておらず、廃止する予定である。今後、消防団の活動の場として活用する計画である。このように、古い公共施設については、そのまま使い続けるだけではなく、他の用途で使う場合もある。</p>	
<p>トレッタみよしの裏側に石などを埋められた。コロナのため、酒屋地区の住民に説明がないまま始まった。地域住民が土埃や大きな音などで困感したため、市に相談された。説明会が開かれた。トラックの出入りが多く、調整池もつくっている。住民側から、困っているから説明会をしてほしいと言われてはじめて説明会を開催するのは、市民に寄り添った市政運営とはいえない。事業を始める前に、住民への説明会をすべきである。</p>	<p>・トレッタみよしの裏への土砂搬入については、説明会などを開催した。三次の魅力化につながる事業について、最終的な判断をする状況になっており、明確な方向性が決まり次第、地域の皆さんに説明会をさせていただく。何か事業をする時には、地元の皆さんなどへの説明会を開催しており、例えば、消防署の建設についても、市民の皆さんへの説明会を実施している。今後、新しい事業や、大きな工事が始まるタイミングにおいては、しっかりと説明を行っていく。</p> <p>・今までの経過を振り返って、どのような説明をしたのか確認し、改めて回答させていただく。</p>	<p>【発言者へ回答】</p> <p>・工事開始前(令和2年3月)、住民向け説明会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、全体説明会の開催を見送りました。関係者(予定地周辺住民及び酒屋地区自治会連合会、酒屋小学校、麻広島三次ワイナリーほか周辺施設)を中心に概要説明を行いました。</p> <p>・その後、住民から騒音などに関する相談・要望を受け、令和2年6月24日、工事場所に隣接している「門田上常会」、「松尾徳市常会」を対象に工事説明会を開催しました。その際、騒音対策を講じるよう要望を受けたため、騒音測定を行った後に対策を講じました。今後も大きな工事をする前には、市民の皆さんに対して分かりやすい説明を行ってまいります。</p>
<p>酒屋地区の人口は増え、小学校や保育所の子どもの数も増えている。いろいろな観光施設が集約されているため、住民の安全に問題が生じている。また、農地がなくなり、そこに住宅が建っている。大災害は生じていないが、片丘川には土砂が堆積しており、土砂を除去してほしい。休耕地も増えており、環境は悪化している。大きな川は綺麗に整備されているので、生活河川の現状を管理者に伝えてほしい。</p>	<p>ここ近年、大きな災害が頻発している。国は、堆積土砂の撤去が災害予防に効果があることを理解しており、堆積土砂の撤去や樹木の伐採などを積極的に進めていただいている。河川が多いことから、順次、計画的に進めていただいている。片丘川は県が管理しており、その整備計画はわからないが、地域の要望を県にしっかりと伝える。県に対しては、片丘川において堆積土砂がたまる箇所を把握するための現地調査も含めて、要望していく。</p>	
<p>地域外から人が多く来る。道路の幅は難しいかもしれないが、交通標識やラインをきれいにするなど、通学路や小さな生活道に配慮して、事故が起きないようにしてほしい。</p>	<p>市教育委員会では、通学路交通安全プログラムとして、国、県、市の関係機関で通学路の合同点検をしている。PTAから危険箇所を挙げていただき、関係機関で検討している。例えば、酒屋地区では、市道酒河6号線の辺りの出入口が危ないことから、横断歩道にブルーラインを引いた。また、市道酒河38号線の中央線と外側線(白線)の塗り直しについて、令和6年度以降に実施していく。</p>	
<p>アグリパーク構想について、毎年同じ質問をしてきたが、民間事業者と擦り合わせている段階であるという回答が繰り返されている。本気になって進めてほしい。</p>	<p>アグリパーク構想について、3年前は構想段階であり、具体的なことは決まっていなかった。昨年は方向性が決定し、用地買収を具体的に進めてきた。今年度は、用地買収を完了させていきたい。民間事業者と事業内容について協議している。時間はかかっているが、着実に進んでいる。具体的なことが確定すれば、地域の皆さんに説明させていただきたい。</p>	

令和6年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月6日(火)

会場:酒屋コミュニティセンター

参加者数:20人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>鳥獣被害で困っている。2mの柵で困っている畑をシカに荒らされた。広島県の鳥獣被害対策チーム「TEGOS」に、安芸高田市や庄原市は加入されているが、三次市は入っておらず、独自の対策をしていると聞いた。三次市の土地面積は広く、鳥獣被害で困っている地域もある。柔軟に対応してほしい。</p>	<p>・市では、専門家を中心に、鳥獣対策協議会や駆除班と連携した取組を進めている。その結果、イノシシとシカの駆除頭数が増えている。しかし、農業被害額の軽減までには結びついていない。「TEGOS」については、取組状況を確認しながら、加入も検討していく。鳥獣被害に悩んでいる皆さんの期待に応えられるように、いろいろな取組を強化していきたい。                  ・鳥根県美郷町では、イノシシを資源化しており、イノシシ肉を東京に売り込んでいる。また、麻布大学と連携し、鳥獣の生態について研究している。これらの情報を収集しながら、対策を講じていく。猿による被害も発生しており、農家の皆さんが大切に育ててこられた農産物を収穫直前に取られるという苦労などはよく理解している。引き続き、農家の皆さんをはじめ、駆除班や鳥獣対策協議会の皆さんと連携し、情報共有しながら、いろいろな手段を講じていく。</p>	
<p>・酒屋地区の住民自治組織では、平成7年に、行政に頼らないまちづくりを行うため、まちづくりビジョン策定委員会をつくった。                  ・市教育委員会からの要望に応じて、酒河小学校5年生に、毎年、防災教育を実施している。小学生の意見が参考になる時がある。子どもたちは大人が気付かないことに気付くことから、子どもたちの意見を聞きながら取り組んでいきたい。</p>	<p>まちづくりビジョンに基づいて、自分たちのまちは自分たちで守ろうという思いで取組をしていただいている。学校を地域全体で守っていくために、コミュニティスクールを具体的に進めている。それぞれの地域で、地域の皆さんや保護者など、学校に関係する方々が一緒に学校を支えていく取組を進めている。このような取組を継続していただければ、行政として心強く感じる。引き続き、市教育委員会と連携され、子どもたちを見守る地域になるようにご協力いただきたい。</p>	
<p>酒屋地区では、遊び場や大型観光施設がたくさんある。若い人を取り込む方法話し合い、住民自治組織でできることに取り組んでいる。コミュニティセンター近くの竹藪を伐採して、森づくりや里山づくりを進めている。昨年、森林組合の協力で伐採した竹を、消防署へ届け出て焼却した。今年もしようとしたが、市から産業廃棄物になると指摘を受けた。トラックに載せてクリーンセンターに持ち込むしか方法がないが、ボランティアの域を越えている。伐採後、芝生を植えれば、親子連れが来てくれるのではないかと。竹の始末について教えてほしい。</p>	<p>竹藪の増加は、全国的な問題である。広島修道大学では、竹を資源として活用するための研究をされている。また、岡山県真備町では、「TEORI」という民間会社が、竹を活用して家具を作製している。視察をした際に、中国地方の竹は、加工する材質に向いているとも言われていた。民間会社と連携することも、一つのヒントになる。</p>	<p>【住民自治組織へ回答】                  伐採した後の竹は、竹のチップ化や炭化による堆肥、竹製品等に利用する方法があります。本市においては、ひろしまの森づくり事業を活用して、里山林や竹林の整備を推進するため、貸出用のウッドチップパーや無煙炭化器を整備していますので、これらの活用もご検討いただきたいと思います。</p>
<p>旧ライカという縫製工場の近く(広島ガス三次とアールエフ三次ファクトリーモールの間)に、『新助池』があり、その管理をしている。しかし、土地の開発などにより、池を活用して農業している人もいない。草刈りを年2回ほどしているが、高齢で負担になっている。決壊する恐れもない。池をつぶして宅地にすればいいのではないかと話もしている。十日市地区の大樽池のように埋め立てることができないか。どこに相談すればいいか教えてほしい。</p>	<p>全国的に、ため池が決壊して被害が出ていることから、広島県がため池の調査を行った。その結果、大樽池が危険なため池に認定されたため、早急に対応しなければならなかった。一方で、新助池はそのような危険な状況ではない。農政課がため池の管理などを行っていることから、具体的に相談してほしい。登記がされていないため池や、農業用水利として使われていないため池などもあり、市としても課題意識を持っている。</p>	